人権通信　保護者版 Vol.3

# しらかべ

創立 100 周年ロゴマーク

２０１６年１２月１２日　人権・同和教育部発行

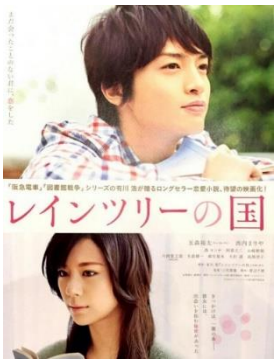
師走の候、保護者の皆様方におかれましてはご健勝のことと存じます。日頃は本校の人権･同和教育にご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、今月号は２学期に行った人権・同和教育 LHR で学んだ生徒の感想を中心に紹介します。ぜひ、ご家庭でお読みいただければ幸いです。また、LHR 後に家庭で話し合った内容や「しらかべ」をお読みいただいた感想や本校の人権・同和教育の取り組みについてのご意見などがありましたら、**別紙返信用紙にご記入の上、２学期保護者懇談の折に担任の先生にお渡しください。**

## 第 68 回全国人権・同和教育研究大会　ー生徒が主体的に取り組む人権・同和教育ー

11 月 26・27 日に大阪市において第 68 回全国人権・同和教育研究大会が開催され、坂出高校の取組を報告しました。7 月に四国地区人権教育研究大会で「生徒が主体的に取り組む人権・同和教育 LHR の展開」を報告し、今回は、その続きで各学年の「現地訪問学習会」での学び、異学年の生徒同士の学習会、人権通信を通した保護者啓発などの取組を報告しました。この報告では、新しい方法を用いて人権・同和教育を行うことよりも、生徒全員の人権・同和問題に対する意識の変容に焦点をあて、LHR や人権だよりなど、従前から行われている手法を見直すことで、その意義を再確認しました。人権・同和教育は、それぞれの学校や生徒の特色を生かした内容・手法であればあるほど、生徒が主体的に学ぼうとします。本校では、10 数年続く現地訪問学習会を通しての学びをなかまに伝えることで共有するだけでなく、LHR を含めた学習を生徒中心で行うことで学びがより深まり広がっています。これを坂出高校の人権・同和教育の大きな特徴として、今後も継続したいと考えています。そして、香同教大会、四人研大会、全人教大会の報告に向けた取組で学んだこと、大会の中でいただいた貴重なご意見を受け止め、これからもしっかりとした実践を積み重ねていきますので、今後ともよろしくお願いいたします。

## 人権映画鑑賞会　「レインツリーの国」




12 月 7 日（水）、坂出市民ホールにおいて、1･2 年生と保護者を対象に人権映画鑑賞会を開催しました。「レインツリーの国」原作は、「阪急電車」、「図書館戦争」シリーズなどの人気作家・有川浩さん。また、この映画は、文部科学省が共生社会の形成に向けて、障がいのある子どもとない子どもが可能な限り共に教育を受けられるよう配慮する「インクルーシブ教育システム」の理念を広く浸透させることを目的として、推奨した映画です。主人公と聴覚障がいのあるヒロインが、当初は衝突しつつも徐々に距離を縮めていく過程が繊細に描かれており、人と人が相互に理解することのすばらしさを伝える映画でした。鑑賞した生徒は、「障がいがある・ないに関係なく、支え合い、誰もが安心して暮らせる社会にするにはどうしたらいいのだろうか。人それぞれにある個性を受け入れる心こそが今足りないのではないだろうか。お互いを尊重できる人になりたい」と感想を寄せました。素敵なラブストーリーからそれだけではない多くのことを学びました。ぜひ、この作品について、ご家庭で話し合ってみてはいかがでしょうか。

# ―ぬくもりを感じて―中倉茂樹さんの思い

２年生２学期の人権・同和教育 LHR では、１学期の学習や、同和問題学習教材「高校生の同和学習」などを用いて学んだ同和問題に関する知識を、さらに深める取り組みをしました。

まず、NHK の TV 番組「その時歴史は動いた」で放送された DVD を視聴し、①江戸時代の身分制度が明治になって廃止されたが、差別問題は解消されなかったこと、②出自を隠していた西光万吉が、差別解消のために立ち上がり、水平社を設立したことを学びました。水平社宣言の中に提起されている人間の尊厳と、西光万吉の力強い姿に、多くの生徒が心を動かされました。

こうした学習をふまえ、11 月９日に開催された、中倉茂樹さんによる人権講演会「ぬくもりを感じて」は、さらに生徒たちの心に響きました。小学校や中学校で学習していた生徒でも、同和問題が今なお多くの人々を苦しめており、何より結婚差別を実際に受けた方の気持ちを直接聴いて、考えさせられた様子をうかがうことができました。「自分の考え方が変わった」「これほど聞き入ったのは初めてだった」という感想も多かったです。そして、今までの生活の中で、「あれは差別だったんだ」と気づいたという感想もあり、今回の学習で、差別の構造、差別する側の意識・偏見をどのように変えるのか、自分もそうなっているかもしれないという危惧も見え、今後に生かして行動につなげようとする意欲も感じられました。差別に対して決してくじけず、人のぬくもりを信じて、仲間と共に立ち向かってきた中倉茂樹さんの生き方に多くの生徒が感銘を受けました。

私たちの生きる社会には、今なお多くの差別があります。差別は、思い込みや偏見、誤った知識あるいは無知から生まれます。生徒たちは、現代社会にあふれる多くの情報の中から、正しい情報を集め、判断し、そして行動しなければなりません。そういった意味では、より困難な時代に生きていくことになります。授業の中で、差別が生まれた経緯を正しく理解し、過去の過ちを振り返ることで、差別に立ち向かう力を養って行ってほしいと思います。以下に、学習を終えた生徒の感想を一部紹介します。

◎差別は良くない、と学校で学んでいたけど、差別に無関心なのも差別をしているのと同じようなことだと気づき、今までの自分の無関心さに恥ずかしくなりました。今までの講演と少し違い、とても印象に残った講演で、これからの自分の生活に生かすことができると思いました。

◎差別はこの世界から簡単にはなくならない気がした。でも、私も中倉さんみたいに少しでもいいから皆の考え方から偏見というものを消したい。それに中倉さんの結婚のとき、奥さんの両親は顔も見ないで反対したと聞いて、差別している人間こそ差別を恐れているのではないかと思った。

◎僕は今日の講演で本当の「なかま」について考えることができました。僕は、人とあわせてしまう部分が多いです。だから、人に流されやすいと思います。中倉さんのなかまは、中倉さんの真実を知っても差別することなく、逆に中倉さんを励ましていて、僕もそのようななかまを持ちたいし、そのような人になりたいと思いました。

◎私自身、部落問題も含め、日常の中に差別をまのあたりにしてきていたのだと改めて思いました。そういった差別をなくそう、なくそうと教わってきましたが、なくすというよりは、差別されている人にどう向き合い、どう接するか、差別している人にどう気づかせるかということをするべきだと感じました。

３学期は、1933 年に起こった高松差別裁判事件とそれに対する水平社の運動について、そして、身近な差別について生徒同士で意見を交わし合いながら学習していく予定です。